

ユネスコスクール加盟希望校
活動内容 確認シート

評価者所属	
評価者氏名	
記入日	

学校名：(例) ○○県▼▼市立×××小学校

番号	評価の観点	確認資料例	資料の有無	確認欄
1. 基礎				
1-1	ユネスコスクール及びESDの考え方を理解した上で、従来行っていた活動をESDの観点で捉えなおし、ESDの実践を行っているか。	- 学校の教育・経営目標等 - 活動実績を示す資料（学校行事、授業研究、特別活動等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-2	ESDを通じて育てたい資質や能力を明確にし、課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成したか。	教育課程	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-3	教科横断的な指導計画を立てるなど指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善を行っているか。	指導計画	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-4	学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境が整っているか。	学校経営方針（体制・環境の整備を示す資料）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1-5	今後のユネスコスクールとしての活動の質の向上のため、学校評価において、活動の点検を行ったか。	学校評価書	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 展開				
2-1	SDGsやGAPなど国際的な枠組みを意識して活動を行うよう努めているか。	活動実績を示す資料（上記1-1と同じだが、SDGs等と当該活動の関係が分かるもの）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-2	ESDの推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果の積極的な発信に努めているか。	広報資料、行事の成果報告書等（発信方法・内容が分かる資料）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-3	地域の多様なステークホルダー（自治体、大学、社会教育施設、NPO、企業等）との連携などを通じて、持続可能な社会の構築のための開かれたネットワークを築くよう努めているか。	協力実績（協力先やプログラム等）が分かる資料	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-4	交流相手の良さを認め合い、学び合うため、国内外の学校とのネットワークの構築に努めているか。	交流実績（交流先やプログラム等）が分かる資料	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2-5	ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）をはじめとした高等教育機関の支援や協力を得ながら、活動の充実に努めているか。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

① チャレンジ期間終了 可 / 否

【判断基準】

基礎、展開の別を問わず、

- 6点以上：チャレンジ期間終了
- 6点未満：チャレンジ期間要継続

② 不十分な点についての今後の改善点【大学記入欄】

ユネスコスクール事務局資料受領日：_____

【参考1】ユネスコスクールガイドライン（平成24年 文部科学省）（名称一部変更）

●ユネスコスクールとして大切なこと

- 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- 地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- 校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- 学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- 必要に応じ、ASPUivNet加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

●ESD推進拠点として大切なこと

- 持続可能な開発のための教育（ESD）を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続可能な開発のための教育（ESD）の理念の普及に努めること。

【参考2】SDGs 及び GAP について

●SDGs（持続可能な開発目標）とは

- 2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された 2030年までの国際開発目標。先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標を設定。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むものとなっている。

（参考）国際連合広報センターHP（SDGsについて）

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

- 2016年9月のユネスコ執行委員会では、ユネスコが主導機関となっているゴール4のほか、科学技術や文化等に関する計9つのゴールにおいても、ユネスコが重要な役割を果たすことが示された。

（参考）ユネスコが重要な役割を果たすとしているゴール

ゴール4(教育) / ゴール5(ジェンダー平等) / ゴール6(水) / ゴール9(イノベーション) / ゴール11(持続可能な都市) / ゴール13(気候変動) / ゴール14(海洋資源) / ゴール15(生物多様性) / ゴール16(平和)

●「ESDに関するグローバルアクションプログラム（GAP）」について

- 「国連ESDの10年（DESD）」の後継プログラムとして、ESDに関する世界会議（2014年日本）で正式発表。2015年～2019年は、世界各国でGAPに基づきESDの推進が行われている。

（日本語訳：文部科学省HP）<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1345280.htm>

- GAPでは、ESDの一層の進展を図るため、以下の五つの優先行動分野に焦点を当てている。
 - ① 政策的支援（例：国や自治体の政策との連携）
 - ② 機関包括型アプローチ（例：ホールスクールアプローチを意識した学校・学級運営）
 - ③ 教育者の育成（例：校内外の職員研修の企画、実施、参加）
 - ④ コース（例：若者との連携や、若手教員のコースとしての活動）
 - ⑤ 地域コミュニティ（例：地域の様々なステークホルダーとの連携）